

## 平成24年度における施策評価

## 施策評価調書

政策コード	8	政策名	環境保全活動の推進		
施策コード	3	施策名	良好な環境の保全と化学物質対策の推進		
幹事部局コード	5	幹事部局名	生活環境部	担当	環境管理課
評価者・実施日	1次評価（生活環境部長）		平成24年7月30日		

## 1 施策の方向性（必要性と目的）

本県の良好な大気や水環境を将来に継承するため、県民が環境への関心と理解を深めるとともに、自主的な取組が行えるよう、環境に関する情報を積極的に提供する。  
十和田湖や田沢湖などの水環境の改善については、それぞれの特性に応じた適切な施策を講じることにより、「豊かな水と緑あふれる秋田」を次世代へ引き継いでいく。  
化学物質に対する自主管理の促進や県民への情報提供に努め、県民の不安を解消する。

## 2 施策の状況

## (1) 施策目標及びその達成状況

●施策目標(評価指標)		基準値 年度	年度	H22	H23	H24	H25	備考
①	大気環境基準達成率(年間)	100	目標値	100	100	100	100	
		19	実績値	100	100			
		-	達成率	100.0%	100.0%			
②	公共用水域水質環境基準達成率(年間)	89.7	目標値	95.0	95.0	95.0	95.0	※H23実績値は青森県とのデータと整合をとる必要があるため集計中
		19	実績値	92.2	※			
		-	達成率	97.1%	#VALUE!			
③	ダイオキシン類環境基準達成率(年間)	99.4	目標値	100	100.0	100.0	100	
		19	実績値	100	100			
		-	達成率	100.0%	100.0%			
達成度		-		B	B			

達成度 A:「全て達成」 B:「半分以上達成」 C:「達成が半分未満」 D:「全て未達成」 E:「その他」

## (2) 施策の推進状況

## ①大気・水質など良好な環境の維持

## ■取組内容

○大気環境について、11測定局で常時監視を実施している。  
○水質環境について、平成23年度、公共用水域109地点、地下水の概況調査30地点及び継続監視調査26地点で常時監視を行った。

## ■取組の成果

○大気環境については、光化学オキシダントは春季から夏季にかけて移動性高気圧による高層のオゾンガスの地表への降下に加え、大陸からの影響などのため全測定局で環境基準を超過したものの、その他の項目についてはすべて環境基準を達成した。  
○公共用水域では、健康項目については自然的な要因を除きすべての地点において環境基準を達成した。また、地下水については、概況調査では環境基準を超過した地点は無かったが、継続監視調査で8地区9地点で環境基準を超過したことなどから、この調査を継続することとした。  
○これらの結果については、県環境白書や「美の国あきたネット」を通じ、県民に情報提供している。

## ■課題と今後の推進方向

○大気汚染常時監視の継続的な実施を行うとともに、特に大陸からの影響も懸念される光化学オキシダントについては、測定機器の整備など、監視体制の強化を図る。また、平成21年9月に微少粒子状物質(PM2.5)について新たに大気環境基準が設定されたことから、国が示す事務処理基準に基づき測定機器の整備を進める。  
○公共用水域及び地下水の常時監視を継続し、良好な水質環境の保全に努める。

## ②十和田湖・田沢湖の水質保全対策の推進

### ■取組内容

十和田湖については、「十和田湖水質・生態系改善行動指針」に基づいた生活排水対策（公共下水道の整備）、水質保全に係る調査研究など、田沢湖については、玉川酸性水中和処理施設維持管理の国土交通省への委託のほか、同施設の効果把握のための水質調査、酸負荷量の変化や影響などの調査研究を行っている。

### ■取組の成果

○十和田湖については、平成23年度の湖心でCOD1.4mg/L、透明度は10mとなっており、行動指針の目標値であるCOD1.0mg/L、透明度12mが依然として達成されていない。

○田沢湖については、平成14年度以降、玉川温泉大噴源泉の酸度は上昇したまま横ばいであり、平成23年度の湖心のpH平均値は5.2と平成22年度と同値であったが、平成23年11月のpHは5.8と高かった。

### ■課題と今後の推進方向

○十和田湖については、行動指針が策定され10年になることから、行動指針に基づき実施してきた調査・研究等の中間報告の取りまとめを行い、今後の水質保全対策のあり方について検討を行うこととしている。平成24年度は、青森県と協働によりこれまでの調査・研究から水質汚濁要因に係る課題をとりまとめる。

○田沢湖については、絶滅したとされていたクニマスが山梨県の西湖で発見され、地元ではクニマスの里帰りへの気運が高まっている。引き続き、玉川ダム管理所に中和処理の徹底した運転管理の実施を申し入れるとともに、平成24年度に新たに設置した田沢湖水質改善検討会により平成27年度までに田沢湖の水質改善に係るより良い方法を検討する。

## ③アスベスト、ダイオキシン類など化学物質対策の推進

### ■取組内容

○ダイオキシン類について、平成23年度は大気5地点、公共用水域の水質20地点・底質10地点、地下水8地点及び土壌10地点について常時監視を実施した。

○アスベスト対策については、アスベスト除去作業現場の確認検査を12件実施するとともに、作業現場周辺（6件）及び一般環境大気中（6地点）のアスベスト環境調査を実施した。また、未対策の民間建築物延べ11施設を建築部局と合同で個別訪問し、融資制度の活用等により対策を講ずるよう働きかけた。

### ■取組の成果

○ダイオキシン類に係る平成23年度の常時監視の結果、全ての地点で環境基準を達成した。

○アスベスト除去作業現場の確認検査では、問題となることはなかった。作業現場周辺及び一般大気環境中の環境調査の結果、いずれも大気汚染防止法に基づく敷地境界基準を下回っていた。また、民間建築物のアスベスト対策工事実施率も徐々に増加してきている。

### ■課題と今後の推進方向

○ダイオキシン類については、今後も環境基準達成の維持を図っていく。

○アスベスト対策については、アスベスト除去作業現場の確認検査や作業現場周辺及び一般環境大気中のアスベスト環境調査を引き続き実施していく。また、未対策の民間建築物に対して、アスベスト対策工事実施の働きかけを一層強化していく。

## 3 評価

### (1) 施策幹事部長による1次評価

評価結果	●施策の推進状況
	○県民の健康への影響を未然に防止し、将来ともに安心して暮らせる生活環境を確保するため、大気や水質等の常時監視やダイオキシン類等の化学物質の実態を把握するとともに、県民への情報提供を的確に進めている。また、アスベスト対策については、民間建築物における吹付けアスベスト除去等の対策工事の推進、除去工事現場周辺環境の監視などを行っている。
概ね順調	●課題と今後の推進方向
	○CODの環境基準が未達成である十和田湖については、湖の特性に配慮した水質保全対策を青森県と共に進める。また、大気環境の常時監視やダイオキシン類等化学物質の実態把握などについて、引き続き取り組んでいく必要がある。特に、光化学オキシダントやPM2.5の測定体制の整備を進めていく必要がある。 ○アスベストについては、民間建築物の除去等の対策促進や、除去工事現場における周辺環境の監視を継続するとともに、1,000㎡以下の建築物の使用実態を早急に把握する必要がある。

(2) 企画振興部長による2次評価

評価結果	●施策の推進状況
	●課題と今後の推進方向

4 評価結果の反映状況等（対応方針）

--

5 政策評価委員会の意見

--